

様々な生きづらさを知る

～ひきこもり～多様な生き方ができる地域社会の実現

ひきこもり状態にある方は、全国で100万人以上いるとされ、若者層に限らず、様々な年齢層におよび、年齢に関係なく生きづらさを抱えている人は少なくありません。

さらに社会問題となっている8050問題、いじめ等の様々な背景から孤立感、閉塞感を強め、長期化することで地域生活を送ることも難しくなるともいわれています。

私たちが、ひきこもりについて正しく知識を学び、理解を深めることは、多様な暮らしが選択できる地域社会において必要なことです。地域でつながる、支える体制づくりを一緒に考えてみませんか。

日時	令和5年2月27日(月) 14:30~16:00 受付(入室)開始時間 14:00~
開催形式	オンライン ZOOMによる配信 会場 下関市社会福祉センター 3階第一会議室 (下関市貴船町三丁目4番1号)※手話通訳・要約筆記有
講師	筑波大学医学医療系社会精神保健学教授 齋藤 環氏 ◇◇講師プロフィール◇◇ 1961年、岩手県生まれ。1990年、筑波大学医学専門学群環境生態学卒業。医学博士。 爽風会佐々木病院精神科診療部長(1987年より勤務)を経て、2013年より筑波大学医学医療系社会精神保健学教授。日本思春期学会理事、日本病跡学会理事。2021年より公益社団法人青少年健康センター会長。 専門は思春期・青年期の精神病理、精神療法、および病跡学。 著書に「文脈病」(青土社)「社会的ひきこもり」(PHP研究所)「ひきこもり文化論」(紀伊國屋書店)「生き延びるためのラカン」(ちくま文庫)「ひきこもりはなぜ『治る』のか?」(中央法規出版)「世界が土曜の夜の夢なら」(角川書店)「ひきこもりのライフプラン」(畠中雅子との共著)岩波書店「オープンダイアログとは何か」(医学書院)など。訳書にヤーコ・セイックラ他著「開かれた対話と未来」(医学書院)がある。 『関係の化学としての文学』(新潮社)で、2010年度の日本病跡学会賞を受賞。『世界が土曜の夜の夢ならヤンキーと精神分析』(角川書店)で2013年に第11回角川財団学芸賞を受賞。 『心を病んだらいけないの?うつ病社会の処方箋』(新潮選書)で2020年に第19回小林秀雄賞を受賞。
対象者	下関市内在住、在勤の方
定員	オンライン 50名・会場 20名(申込順)
申込締切	令和5年2月20日(月)まで 準備の都合がございますので、必ず事前のお申し込みをお願いします。 裏面の申込方法および注意事項をご確認の上お申し込みください。

お申込み・お問い合わせ先 下関市基幹相談支援センター

〒751-0823 下関市貴船町三丁目4番1号

TEL(083)231-1959/FAX(083)235-3210

EMAIL shimoshoukikan@shimoshakyo.or.jp



令和4年度 障害者の理解促進事業研修会 申込方法・注意事項

◇オンライン・会場参加 共通申込 URL、QRコード◇

【URL】

<https://forms.gle/wK92lStfs7RB7hTY8>

【QRコード】



※URLかQRコードで、申し込みフォームにリンクします。必要事項を入力後送信してください。

◇オンラインにて参加される方へ◇ 【定員 50名 申込順】

- ・開催2日前頃に、登録のメールアドレスへ招待 URL、講演資料をお送りいたします。
(メールの受信ができるよう設定をお願いいたします。)
- ・講演中の録画・録音・撮影、資料の無断転用や掲載は固くお断りします。
- ・当日の接続トラブルへの対応はできかねますのでご了承ください。

◇会場にて参加される方へ◇ 【定員 20名 申込順】

- ・下記申込書でも申込可能です。必要事項をご記入の上、FAXにて送信ください。
- ・受付にて検温を行います。マスク着用、手指消毒等感染対策にご協力ください。
- ・発熱や体調が思わしくない場合は、参加をお控えいただきますようお願いいたします。
- ・新型コロナウイルス感染症状況により、オンライン開催のみになる場合もございますので、変更の場合には改めてご連絡いたします。

2月27日(月)障害者の理解促進事業研修会 参加申込書(会場参加用)

ふりがな 氏名	
連絡先	電話 日中連絡の取れる番号をお願いします FAX メール
所属団体 事業所名	所属機関のある方はご記入ください

申込締切:2月20日(月) 下関市基幹相談支援センター宛 FAX(083)235-3210